

414
A2258



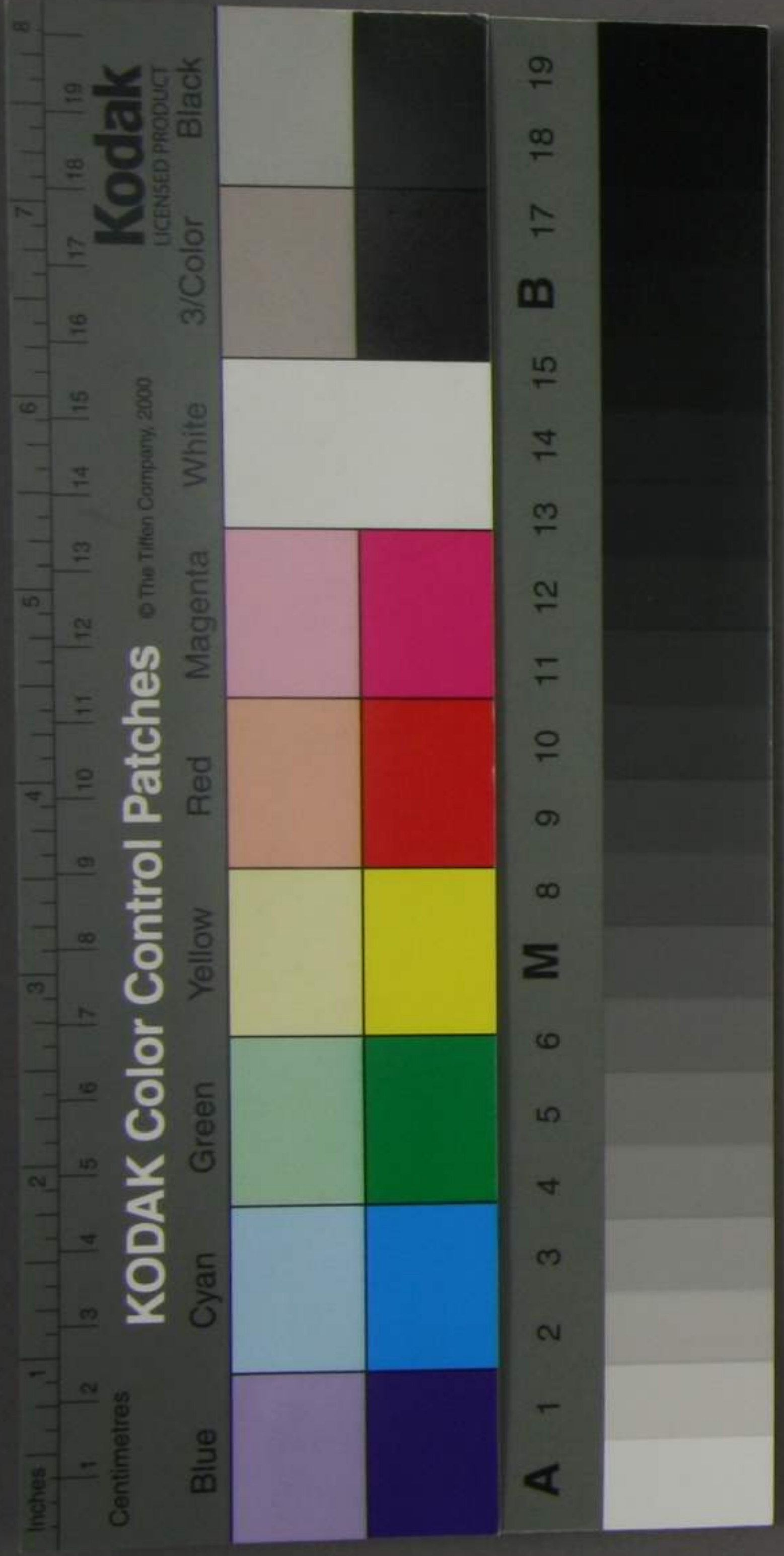
常平局

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

一明治十一年六月十七日大藏省中ニ常平局ヲ開設シ之
 レカ出張所ヲ大坂ニ設置スト本省乙第廿七号及廿八
 号ヲ以各府縣ニ達シテ布カレタリ

一權大書記官與倉守人局長ニ拜命シ事務章程上款廿八
 條下款廿二條ヲ下付セラレ尋テ權大書記官石渡貞夫
 權少書記官横山貞秀及屬官十八名御用掛三名等外廿
 四名常平局勤務ニ拜命セリ爾後事務ノ都合ニ依リ他
 ノ局課ヨリ兼務及漸次増員シ則十三年二月廿八日
 ニ於テ奏任六人^{内三人ハ出納局}判任三拾三人^{内五人}
 局ヨリ兼御用掛七人^{内壹人陸軍少尉}等外三拾三人^内
 務十人^内出納局ヨリ兼^内倉貳人^内壹人^内本局ヨリ

ろノ



一從來由納局ニ於テ管理セシ處ノ各所米廩及銀行課擔
務セシ處ノ米高會所事務ヲ設局課ヨリ受領スヘキノ
命ヲ得テ則チ之レヲ受領シ以テ明治十一年七月一日
開局スル處ナリ

一開局ニ方リテ事務章程ニ據リ條例廿五條ヲ制定シ之
レカ裁可ヲ得テ局務ヲ内外ノ二部ニ分テ則チ本局ニ
在テ局長自ラ為スヘキヲ内部トシ各地米廩ニ在テ各
長官又ハ該地縣令ニ屬托スルノ事務ヲ外部ト定メ尚
事務ヲ細別シテ處務順序ハ拾條二百七拾四例ヲ區定
シ以テ踐行スル処ナリ

一常平局資本金ヲ三百萬圓ト定メ以テ米穀糶糶其
他運轉スヘキノ下命ヲ得則チ開局ニ方リ用度課ヲ經
テ準備運轉金ノ中ヨリ繰替借入ノ順序ヲ以テ受領セリ

而シテ之レカ計算ノ方法ハ資本請拂精算報告及ニ收
入精算勘定帳ヲ毎三ヶ月大藏卿ニ上呈シ閱覽了テ用
度課ニ格護スルノ決裁ヲ得タリ
一十二年米穀ノ作柄タルヤ近年稀有ノ豐熟ニシテ本年
度ニ於テハ充分ノ貯蓄セサルベカラス然ルニ今此各
地米價ノ騰貴ニ際シ糶收ニ著手セハ猶騰貴ノ極點ヲ
量ルヘカラス加フルニ客歲九十兩月ノ如キハ最モ騰
貴ノ極點ニ至リ其最高ハ拾壹圓余ニシテ最低ノ地方
(則チ石川縣
下伏木港)ト雖モ六圓五拾錢ヲ下ラス故ニ糶收ヲ及
シテ積蓄米ノ内貳萬九千石餘ヲ東京七萬五千石餘ヲ
大坂兵庫三千石餘ヲ長崎市中ニ於テ糶賣ニ付ス此時
ニ方リ猶各府縣ヨリ民食欠乏ノ故ヲ以テ糶米ノ賣却ソ
クモノ甚タ多シ然レモ常平局開設ノ日尚淺ク充分

ノ蓄積無キヲ以之ルニ應スル能ハサルノミナラス遂
ニ蓄積殘米三千石餘ノ少額ニ至ル然ルニ幸ヒニシテ
尔后十一月ニ至リ米價ノ下落ヲ來クシ併セテ新
穀ノ稍各市街ニ輸入アルヲ以漸次下落スト虫氏目今
ノ景況ニ於テ尚前年ノ豐作且ツ例年ニ以スルニ其價
値適當ノ價位ニ復セヌ故ニ未タ糶收ニ著手スヘキ目
的ニ達スル能ハザルナリ

一賣却米代價ノ取立ニ際シ眞贋ヲ監定セシムル爲メ大
坂兵庫ハ三井銀行東京ハ第一國立銀行、其取收ヲ命
ジ收入高キ分ノ一ヲ以手数料ト定メ此金額ヲ定額常
費ノ内ヨリ支出スベキモリト定メタリ

一海外ニ米穀ヲ輸出スルニ方リ玄米ト白米トノ得失ヲ
試験ノ爲メ曩ニ内藤新宿植物御苑内ニ設置スル所ノ

精米機械ヲ以玄米ヲ磨擦シ該白米ヲ在横濱英高イヒ
ワケツニニ委託輸出シ漸クニシテ賣却ノ決算ヲ立ル
ニ及ヒ其實益ヲ量ル海外ノ賣價我壹石ニ付拾六四六
錢余ニ相當シ其元價ハ諸費ヲ合シテ拾三四三拾五錢
余ナリ彼是對照スルニ壹石ニ付貳四七拾錢余ノ益金
ヲ生スルヲ以則チ四割余ノ益金ニ當ル因テ尚之レカ
事業ヲ擴張セシト既ニ淺草米廩構内ニ蒸氣カラ以米
國製磨擦米器械設立ニ從事シ其落成ノ期モ近キニ至
レリ猶兵庫米廩構内ニモ設立ノ見込ヲ以テ既ニ設機
械購入ノ上回漕セリ

一凡ソ海外輸出米穀ノ代價ハ輸入スルノ僅少ニシテ其
英國貨幣ノ如キハ概テ國債局擔務スル所ノ外債支消
ニ充ツ而シテ常平局開設以來其外債支消ニ充テタル

金額英貨貳拾四万千六百貳拾四磅拾壹志五片ニシテ
此通貨百四拾九万七千五百九拾七圓貳錢ナリ

一 大坂兵庫ノ米廩ハ大坂常平局出張所ニ於テ管理スル
必ニシテ石ノ巻長崎ノ米廩ハ兩地出納局出張所在勤
ノ書記官ヲシテ常平局御用掛ノ命令ニ依リ管理セシ
ムルモノナリ其他下ノ関四日市ノ米廩ハ山口三重ノ
兩縣令ノ屬托スル所ナリ

一 常平局開設ニ方リ出納局ヨリ受領シ尔後増建等ヲ為
シ則明治十三年二月廿八日ニ於テ所管スル所ノ各地
米廩左ノ如シ

東京米廩 東京府下
淺草區ニアリ

總地坪三万貳百七拾八坪

米廩四十三棟

此戸數貳百貳拾六戸

此詰米九ノ三拾三万八千石余

右米廩ノ内三棟ハ四ヶ年以前ノ新築ニシテ皆石造
ナリ其他皆百餘年ノ星霜ヲ經タル舊廩ニシテ歳々
之レカ修繕ヲ要スルニ巨額ノ金莫ク消費セシ尙逐
年壹棟宛ヲ改築スルノ見込ナリ外ニ蒸氣機械精米
器械設立中ニシテ其落成ニ迄キニアリ

大坂米廩 大坂府下西成郡
難波村ニアリ

總地坪壹万貳千六百三拾六坪

米廩三拾貳棟

此戸數八拾壹戸

此詰米九拾四万五千石余

右米廩ハ皆五十余年ヲ經タル舊廩ニシテ是又歳々

夥多ナル修繕費ヲ要スト雖モ米穀積蓄スルニ雨潦
ヲ凌クニ止リ敢テ充分ノ修補ヲ為サズ又改築スル
ノ目途ヲ為サズ是レ運輸不便ノ米廩ナルカ故ニ往
々要用ノ米廩ト見認ノサル所以ナリ

兵庫米廩

兵庫縣下兵庫區
南逆瀬川町ニアリ

總地坪四千三百九拾五坪八合

米廩五棟

此戸數貳拾四戸

此詰米九三万五千石余

右米廩、明治十年ノ新築ナリ然ルニ僅カ五棟ノ米
廩ニシテ夥多ナル米穀積蓄スル能ハサルニヨリ目
下五棟ノ米廩増築中ニシテ本會計年尾ニ至リ落成
ノ見込

長寄米廩

長寄縣下長寄區
大黒町ニアリ

總地坪九百九拾坪貳勺貳才

米廩拾棟

此戸數貳拾三戸

此詰米九貳万八千石余

右米廩ハ明治九年ノ新築ナリ

石ノ巻米廩

宮城縣下牡鹿郡石ノ巻村
湊村中島ノ三ツ所ニアリ

總地坪五千五百三拾坪

米廩三拾八棟

此戸數三拾八戸

此詰米九六万石余

右米廩ノ内五棟ハ明治九年ノ新築ニシテ其他皆數
十年ヲ経タル舊藩ノ建築ナリ故ニ歳々之レカ修繕

為ノ若干ノ金額ヲ消費セリ猶野蒜港ノ開港ヲ俟
ツテ移築スルノ見込

四日市米廩

三重縣下三重郡
四日市村ニアリ

總地坪六千貳百九拾四坪

米廩拾三棟

此カ數貳拾六カ

此詰米九貳万四千石余

右米廩ハ明治十年ノ新築ナリ然ルニ夥多ノ米穀積
蓄スル能ハサハニヨリ目下三棟ノ米廩増築中ニシ

テ本會計年尾ニ至リ落成ノ見込猶十三年度ニ至リ
貳棟ノ米廩ヲ増築スヘキ見込ナリ

赤間関米廩

山口縣下赤間関區
阿彌陀寺町ニアリ

總地坪千百四拾九坪壹合七勺

米廩拾三棟

此カ數拾三カ

此詰米九三万石余

右米廩ハ數十年ヲ経タル旧藩ノ建築ナリト虫日明
治十年ニ於テ充分ノ修繕ヲ加ヘタルヲ以テ目下大

破ノ患アラサルヘシ

若津

福岡縣下三潯郡
若津港

總地坪千貳百四拾七坪

未タ米廩建築セズ

右ハ明治十一年以來地所ヲ購求シ其後十二年度於
テ水害防禦ノ為ノ敷地ヲ修築マリ本會計年度ニ於
テ四棟ノ米廩建築スヘキ用材石ヲ購入シ十三年度
ニ至リ建築着手ノ見込尚五棟ノ米廩ハ後年度ヲ俟

ラ建築ス一キ見込

伏木

石川縣下射水郡
串岡大田ノ兩村ニ涉ル

總地坪四千百拾壹坪四勺五才

未タ米廩建築マス

右ハ明治十一年以來地所ヲ購入シ示後田畑ノ低地
ヲ修築セリ本會計年度ニ於テ貳棟ノ米廩ヲ建築ス
一キ用材石ヲ購入シ十三年度ニ至リ建築著手ノ見
込猶五棟ハ逐年經費ノ都合ヲ量リ増築ノ見込
一常平局開設ニ方リ銀行課ヨリ其事務ヲ受領シ所管ス
ル處ノ米高會所左ノ如シ

東京府下

兜町米高會所

東京府下

幡越町米高會所

京都府下

七條米高會所

大坂府下

堂島米高會所

兵庫縣下

兵庫米高會所

滋賀縣下

近江米高會所

愛知縣下

名古屋米高會所

三重縣下

桑名米高會所

新潟縣下

新潟米高會所

石川縣下

金澤米高會所

岡山縣下

岡山米高會所

山口縣下

赤間関米高會所

徳島縣下

徳島米高會所

愛媛縣下

松山米高會所

右ノ外各地方ヨリ米高會所創立ヲ出願スルモノ陸續
トシテ止マス甚シキニ至ツテ一縣下ヨリ三ヶ所ノ

創立ヲ出願スルモノアリ又ハ再三再四出願スルモノ
アリ然ルニ現在設立ノ米商會所ト雖モ又舊慣弊習少
シカラハルヲ以テ諸規則ノ改正ヲ要シ尚官吏ヲ派出
シ實際上ノ検査ヲ為サシノ其弊害ヲ矯正セシメント
欲スルモ如何セシ積年ノ弊風一朝ニ改正スル能ハス
故ニ漸次改良ノ方法ヲ起草シ條例改正ノ議ヲ伺票ス
ヘキ見込ニシテ新タニ創立スヘキ場合ニアラハルノ
時勢ナシハ幾回ノ出願アルモ許可セザル以テナリ
一各地方ニ於テ米商會所類似ノ營業ヲ為スモノ少ナカ
ラズ故ニ租稅局出張所詰酒造監査官ヲシテ内偵セシ
ノ以テ米商會所條例ニ犯則スルモノ發見スルキハ直
ニ各地方官ニ通報シ其處分セシムヘキ旨ヲ令達ス示
後其報告ニ三アリト雖モ陽ニ正米ノ取引ト稱シ陰ニ

限月賣買ノ取引ヲ為スモノニシテ容易ニ之レカ證據
ヲ得ルニ難シ尚追漸取調ノ方法ヲ設ケヘキ見込ニ有
之
一宮内省ノ依頼ニ應ニ御膳米ヲ磨擦ニ漸ク設省ヘ送付
フルモノ精白米貳拾八石余ニシテ尚尔後壹ヶ月三石
宛ヲ送付スルノ目途ヲ以テ恒ニ上等ノ七濃米ヲ備ヘ
置キナリ
一爪哇國種籾ヲ以テ我國ニ播種スルキハ其收穫内國産
米ニ比スルニ多量ナル見込ニテ既ニ設種籾ノ輸入ヲ
要シ各縣内務省勸農局ヘ協議シ追々各府縣ヘ分配セ
リ曩ニ各縣於テ試験セシニ其收穫ニ於テ多寡アリト
虫氏逐年好結果ヲ得ルノ兆アリ
一常平局ノ定額常費金十二年度ハ降四ヶ年間毎歳ノ經

貴本支居合セラ三万千七拾六回ヲ以テ支辨スヘキ
ノ令達ヲ得シテ而シテ尚奏任以上増給及豫算編成法
改正等ニヨリ豫算高千六百八拾四回ヲ増加シ則十三
年度ノ豫算額ヲ三万貳千七百六拾回トシ既ニ豫算帳
ヲ上呈セリ